

平成22年度

教育研究開発センター自己評価委員会議事録〈議事録〉

日 時：平成22年12月13日（月）18:00～18:50

場 所：高度医療人育成センター 5階 中研修室1

出席者：羽野委員、篠崎委員、岩橋委員、岡村委員、
大江委員（和歌山市教育長）、山田委員代理（志波保看教授）

《 議 題 》

■ 平成21年度事業実績報告について

平成21年度の事業実績について、羽野委員が医学部分を、志波保看教授が保健看護学部分をそれぞれ報告し、その後意見交換を行った。

【主な発言】

- ・ 学外者のスキルスラボ使用に際し、使用料を徴収すべき（岡村委員）
→現在、使用した消耗品については現物で返却してもらっている。施設使用料、原価焼却的な経費は徴収していない。使用料を徴収する方向で進めているが、料金設定に向けて試算しているところである（羽野委員）
- ・ スキルスラボの予算規模は（篠崎委員）
→消耗品費で500万円程度。常駐している事務補助員（看護師含む）の人件費については、GP予算から支出している。
なお、常駐している事務補助員等は機械の立ち上げや簡単な操作ができるようトレーニングしている。
- ・ アドミッションポリシーに記載する必要はないが、優れた医療人を育てるためには、帰属意識を持ち、地域（郷土）を知ることが重要である。（大江委員）。
- ・ 地域医療について、当該報告書に記載した方がいいのでは（篠崎委員）。
→Early Exposure、地域実習など個別事業において、学生が地域医療について学ぶ取組を行っているが、当該報告書は基本的にはセンターの事業実績について記載することとしている。
来年度からカリキュラムを一部改正し、地域医療に関する講義を増やしていく予定なので、次々回から当該報告書に盛り込んでいくこととする（羽野委員）。
- ・ 事業を計画する段階で各科の要望等を聞く機会を設けてほしい（篠崎委員）。
→新たな取組などを行う時には、教授会等で説明し、意見・要望などを聞くこととする（羽野委員）